



NPO法人 大谷石研究会

大谷石の魅力を全国のみなさんへお伝える大谷石研究会の広報誌



木陰と大谷石塀のあるF.L.ライトの小路



明日館・大谷石の暖炉



民藝館西館の大谷石葺きの長屋門



旧前田邸洋館の煌びやかな内部

令和6年6月15日、東京の池袋・目黒方面を巡る研修会に参加しました。

最初の見学先は「自由学園明日館」、建築家フランク・ロイド・ライトの設計した建物です。本館と講堂の間には「F.L.ライトの小路」という路があり敷地が分かれていました。周辺のアスファルト舗装が一変し、この小路はインターロッキング舗装の中に白御影のピンコロ石にてロードサインがつけられた繊細な表情に合せて、桜の木の木陰が気持ちのよい路になっていました。人が腰を掛けて小休止するのに丁度よい高さでつくられた低い塀は、所々に水平を強調するように凸に積まれた大谷石でつくられていました。ライトのプリーリーハウス様式が外構の隅々にも感じられます。敷地の周囲を見渡すと高層商業ビルが取り囲んでいて、この自由学園だけ低層で際立つ形で存在しています。今日の見学会は館長から詳細な解説をいただくことができましたが、幸いにも関東大震災や戦禍を逃れたエリアとして区画整理されていなかったために残ることができたのでした。

大谷石は建物外部では基壇に、内部ではエントランスの床、巾木、人が集まる部屋の暖炉などに使われていて、しっかりとてまた温かく優しい表情で私たちを迎えてくれました。講堂は耐震補強改修を行ったことで、工期33か月の軌跡が展示されていました。写真を見ると屋根はおがくず断熱だったようです。舞台の縁はポリウムが程よく分節された大谷石の袖柱で繊細につくられていて、ステージを引き立てているように感じました。もし、この建物に使われた石が大谷石でなかったら、どんな建物になっていたでしょう。

うか？・・・と館長からの問いがありました。別の石では全く印象の異なる建物になっていたところから大谷石がベースに使われているからこそ温もりの感じられる建物となり、永く愛されてきたに違いないという確信が湧きました。

次に向かったのは「日本民藝館と旧柳宗悦邸（西館）」です。本館の玄関土間に入ると、正面に威風堂々とした中央吹抜階段があります。材寸の大きな木の階段は、長い年月をかけて磨かれて滑らかに光っていました。館内では陶器、漆器、彫刻他大小さまざまな民芸品を見ることができました。そして別館である西館の道路沿いにある長屋門は栃木県河内郡の日光街道沿いにあった門の移築とのことですが、大谷石瓦で葺かれていて重厚感がありながら繊細な加工技術で作られており、軽やかさも感じる瓦のディテールに驚きました。

最後は日本民藝館に隣接している駒場公園内の「旧前田家本邸洋館と和館」を見学しました。洋館は圧倒される絢爛な意匠の中、行き止まりのない口の字型回廊プランの構成と相まってより幻想的に感じました。戦国時代から永く繁栄が続いた御家と常人との違い、秘訣は何かと気になりました。和館では池田会員から建物の構造・造作材に使用されている木材の価値について詳しく教えていただきました。その中でも書院に使われている一枚板は圧巻でした。現代ではまず採れずまた使う機会もそうそうないであろう長尺で厚い板は、やはりこのように机・テーブルの天板か、あるいは床板として常に触れるところに使うのが一番よいのかと思いました。

大谷石が広い地域で使われ、文化人に愛されてきたことを改めて認識いたしました。会員の皆さまと貴重な情報を共有できる素晴らしいツアーに参加させていただき、心より感謝しております。

NPO法人大谷石研究会 会員 富田 和則
宙乃船建築設計事務所

「東京方面研修見学会」に参加して

■編集・発行 NPO法人 大谷石研究会

〒321-0345 栃木県宇都宮市大谷町350番地
(有限会社 高橋佑知商店内)
TEL028-652-0005 FAX028-652-2337
http://www.ooyaishi.org/
mail:info@ooyaishi.org

編集責任者 佐藤 公紀

大谷石研究会では、会員の募集をしています!

入会の資格は、年齢、性別、職業、地域を問いません。
「大谷石が好きだ!」という事だけです。
現在、20代から80代の約120名の会員がいます。
年会費は個人会員4,000円、特別会員10,000円です。
入会希望者は、左記の事務局へ問い合わせ下さい。



旧小日野屋商店調査報告

NPO法人大谷石研究会 理事 小林 基澄(小山工業高等専門学校建築学科助教)

令和6年10月6日、大谷石研究会メンバーと高専、大学の関係者ら24名で、宇都宮市徳次郎町内に建つ旧小日野屋(こひのや)商店の石造建物の実測やヒヤリング調査を行いました。

旧小日野屋商店は日光街道に面し、商家として明治初期に開業しました。開業後は教科書の販売や、日用品など雑多な商品を扱っていた時期もあり、地域の中心的な存在だったといわれています。敷地内には見世蔵や離れ、石蔵、納屋など、合計6つの建物が存在し、それらすべてに大谷石や近くで産出した徳次郎石が使われています。

これらの建物および敷地全体について、図面の作成を意識した内外の実測や写真による記録、及び所有者へのヒヤリングを行いました。建物の図面をおこすことで、石造建物の建築的な詳細を明らかにすることを目的としています。



石蔵の内部を実測調査中



街道沿いから見た見世蔵



敷地奥の石蔵

ここで、調査した小日野屋商店の建物の紹介をしていきます。まず、街道正面に建っている見世蔵についてです。この建物は明治7年に建てられ、建物の外周に徳次郎石が張られています。側面だけでなく正面にも石が張られた町屋建物というものは大変珍しく、さらには下屋部分には石を雄瓦と雌瓦に加工して交互に重ねた石瓦も葺かれています。商店と住居をかねた2階建ての内部もさることながら、街道沿いに印象深い石の景観を形成していました。

一方、敷地奥に佇む石蔵3棟も、非常に大きな存在感を放っています。それぞれ明治3年、明治15年、明治45年に建てられており、その間を石塀が繋いでいます。こちらも全面石が用いられ、屋根部分も石瓦です。開口部は比較的シンプルですが、破れ目地でレリアウトされた外壁はピシヤンや平刃で調整さ

れ、石工によるさりげない丁寧な加工や仕事が光ります。敷地内の庭園空間のなかに見事に配置されています。他にも納屋や倉庫、井戸、祠などの建物が建っています。このように、石塀に囲まれた敷地内には別世界のよう魅力的な石の空間が広がっていました。

今回の調査は朝から始まり1日かけて完了しました。得られたデータをこれから分析して、図面化も行います。今年は恒例の農村集落の石造建物と町並みの調査ではなく、建物の詳細を実測するものであり、研究会メンバーのみならず、たくさんの方の協力が得られました。このことにより、これまでとはまた違う新たな地域の石造技術・文化について、深く掘り下げることに繋がると考えられます。

会員紹介 「大谷石文化を学び続けて」

NPO法人大谷石研究会 会員 張海燕
(作新学院大学経営学部 准教授)



作新学院大学経営学部の張海燕と申します。2006年に留学で来日して今は20年が経とうとしています。私は、大学院から中国と日本における文化遺産の保存と観光活用に関する研究を続けてきました。2022年に作新学院大学に赴任するために宇都宮市に移住してきました。初めて訪れた大谷資料館の広大な地下空間に圧倒されたことは、今でも鮮明に覚えており、その日から大谷石の魅力に惹かれ続けています。

この度、大谷石研究会に入会し、理事長様や会員の皆様から大谷石の歴史や価値、さらには観光振興の取り組みについて学ぶ機会をいただきました。お話を通じて、大谷石が持つ文

化的意義と地域資源としての重要性を改めて認識し、ますますその魅力に引き込まれています。大谷石の採掘跡地は、単なる建材ではなく、地域の歴史や文化、そして住民のアイデンティティに深く根ざした存在だと強く感じました。

大谷石についてまだまだ学ぶべきことは多いですが、これまでの研究経験を生かしながら、会員の皆様からご指導をいただき、大谷石の保存や活用、観光振興におけるマネジメントについてじっくりと考え、微力ながら地域の持続可能な発展に貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



参加者は22名、晴天に恵まれた楽しいバスの旅となりました。今回の行程は、福島市民家園（福島市上名倉）道の駅ふくしま（福島市大笹生月崎）旧堀切邸（福島市飯坂町）旧亀岡住宅（伊達市保坂町）という、歴史的建造物をガイド付きで巡るものでした。

最初に訪れたのは福島市民家園でした。敷地は11万平方メートルの園内に、江戸時代中期から明治時代にかけての東北地方の民家を中心に、梁川村（現在の伊達市）の芝居小屋や、福島市内の商人宿や料亭、会津地方の民家などが移築復元されています。復元された多くの建物は、それぞれ国・県・市指定の文化財として保存されています。まず目を引いたのは、旧佐久間家の板倉です。板倉としては大型で、柱間に板を落とし込む構造が特徴的でした。次に、旧小野家の大きな養蚕農家、「一階の「みせ」部分に見られる部戸（しとみど）」が特徴的で二階座敷が宿泊に利用された旧寛家宿と見学し、幕末の歴史的

な舞台となった割烹旅館「元客自軒」では、数寄屋造りを簡略化した建築様式が見受けられました。さらに、馬屋中門造の旧馬場家では、この地域ならではの「火伏」のお守りを目にすることができました。園内で最も大きな国指定文化財である芝居小屋「旧広瀬座」は、残念ながら改修中で見学できませんでしたが、古民家では珍しい大壁造（柱が見えない構造）の旧菅野家を見逃したことを武井さんと遠藤先生に話すと、写真を見せていただき、実際の構造についても安高先生のお話で学ぶことができました。

午後の見学は、国指定登録文化財である「旧堀切邸」へ。江戸時代から続いた豪農・豪商の旧家が修復・復元されており、天井の高い贅沢な造りでした。母屋に隣接する二つの蔵は、使用されている建材やデザインが異なり、その多様性が非常に興味深かったです。また、奥州三名湯に数えられる飯坂温泉郷に位置しており、温泉にも興味を引かれました。

最後の見学は、国登録有形文化財である「旧亀岡家住宅」です。明治時代に蚕糸製造で財をなした有力者の邸宅で、建材には貴重な銘木が使用されています。書院や床の間、欄間など、細部にわたる精緻な造作が施されており、亀やリスの彫刻が密かに施されている点にも、遊び心を感じました。外観は洋風、内部は純和風の書院造りという入れ子状の二つのモジュール（規格）の違いをどのように解消したかという点が非常に興味深かったです。住宅とは思えない規模の建物で、建築には多くの大工や職人が関わったことが伺えました。

今回の旅を通じて、隣県にもまだまだ多くの貴重な場所があることを再認識しました。「古きを訪ねて新しきを知る」イノベーションの種は意外にも古いものの中に隠れているのかもしれません。普段あまり交流のない会員の皆さんとも触れ合うことができた有意義な時間でした。次回の旅も楽しみです。

NPO法人大谷石研究会 会員 櫻井 澄子
(ナックス・ヘスクリー・エーション) 級建築士事務所/マチノバス・ヘス610 (こども建築塾)

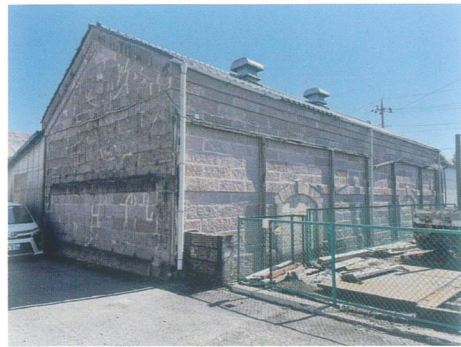
「秋のみのく福島 歴史的建築物をめぐるバスの旅」

J Aうつのみや管内石蔵 「農業倉庫」の調査

NPO法人大谷石研究会 理事 遠藤 康一（宇都宮大学）

宇都宮市近郊には、昭和初期以降に建築された農協（JA）が保有・管理する石造の農業倉庫（石蔵）が各所に残り、地域の資源と産業、人々の関わりやその痕跡を留める文化的景観を形成しています。かつてこれらの石蔵は、政府の食糧政策遂行の重要な基盤でしたが、農業の近代化が進むにつれてその役割が薄れていきました。さらに近年は老朽化が進み、やむ無く取り壊される事例も少なくありません。

大谷石研究会と宇都宮大学遠藤研究室では、この貴重な空間資源の現状を把握し基礎的な情報を整理するために、3月11日（月）と8月7日（水）の2日間、JAうつのみやの協力の下で調査を行いました。1日目は所下調査を目的としたもので、9箇所18棟の石蔵が確認されました。それらは、下小池（大網石）、駒生（大谷石）といった一部の戦前のものを除き、



大網石（桜石）造の下小池倉庫外観



駒生倉庫の内部実測

大半が戦後農協の下で平成初期までの間に建築されたことが推測されるものです。2日目は、中でも立地環境に優れた2箇所（駒生、金井）について内/外の簡易実測調査とヒヤリング、また2箇所（下小池、屋根）について外観調査を行いました。JA城山支所併設の駒生倉庫は、2棟の大谷石積石造・控え壁付の石蔵（1棟は昭和21年建築）が、日光街道の桜並木に面する金井倉庫は、2棟の石蔵（大谷石積石+RC臥梁造・昭和37年、大谷石積石+RCラーメン造・昭和43年）が現存、建築年代による構法の展開を見ることができました。

地域工法により造られ、地域の農業経済を支え、農業に従事する人々を中心とする地域拠点としての記憶を次の世代に引き継ぐための方法を検討するために、引き続き調査を継続して参ります。

■ 栃木県立博物館友の会2024年度講演会 〈予定表〉

会期	講師	内容
1回 10/26(土) 終了	宇都宮大学地域デザイン科学部助教 大嶽陽徳	「建築家更田時蔵の仕事 旧大谷公会堂・旧大内村役場・T代議士邸について」
2回 11/23(土) 終了	株式会社 アトリエ慶野正司 慶野正司	「石蔵のリノベーション吉田村ビレッジ物語」
3回 12/22(日) 13時30分～	千葉大学工学部教授 安森亮雄	「日本と世界の石のまちと建築」
4回 1/18(土) 10時～	小山工業高等専門学校建築家助教 小林基澄	「岩船石の建造物について」
5回 2/9(日) 13時30分～	宇都宮大学地域デザイン科学部講師 遠藤康一 陶芸作家 藤原郁三	「ワグナー・ナンドールの建築と作品について」



2棟の石蔵が雁行配置された金井倉庫

大谷石 東西南北 東京駅待合室の落ち着きを演出

NPO法人 大谷石研究会 広報担当 平沼 隆志

この大谷石を、どれほど多くの人々が日々、目にしていることだろう。ここはJR東京駅新幹線改札内の待合室。全国各地に向かう人々でいつも混雑している。喫茶の壁に使われた大谷石が、椅子に座れば自然と目に入る。列車や連れを待つ人々の気分は十人十色。つまり、この部屋には喜び、憂うつ、悲しみ、いら立ち、怒りなど種々雑多な感情が持ち込まれる。雑然とした雰囲気になりにくい。落ち着いた雰囲気の演出で大谷石が役を買っている気がする。商品や注文方法の掲示で隠さないでほしいものだ。



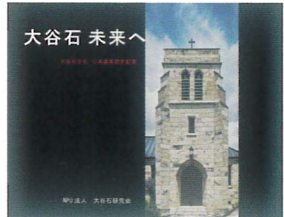
「日光金谷ホテル」 (24頁掲載)
2階建てが地下を掘り下げて3階建てになった

写真集「大谷石 未来へ」

NPO法人 大谷石研究会
2,500円(税込) 113頁

販売書店

【東京都】 丸善丸の内本店
日本建築学会 建築書店
南洋堂書店
【栃木県】 落合書店(宝木店・イトーヨーカドー店・トナリエ店・東武店) うさぎや(作新学院前店・宇都宮駅東口店・宇都宮テクノ店・東楽瀬店・戸祭店・矢板店・自治医大店・栃木城内店・益子店) ビッグワン(若草本店・400号西那須野店・黒磯店) 森百貨店 栃木県立博物館 宇都宮美術館



施設の担当者から説明を聞く
(「ふるさと学習」中の城山中学校の生徒たち)
写真提供：宇都宮市立城山中学校

◆「ふるさと学習」各学年のテーマと各班の探索ポイント◆

- 1 学年 城山地区の歴史を学ぼう
大谷寺・平和観音16、大谷資料館24、多気山22、森林公園18、古賀志山22
- 2 学年 城山地区の魅力的な産業について学ぼう
駒場牧場19、OHYA BASE19、阿部梨園18、日光ゆば製造18、小野口ファーム19
- 3 学年 城山地区の魅力を発信しよう
大谷寺・平和観音20、大谷資料館19、大谷石産業23、多気不動尊20、ジャパンカップ17

取材を通して、後輩たちが新鮮な気持ちで活動に取り組み様子に、頼もしさを感じました。「石のまち」大谷に誇りをもち、新しい世界で活躍してほしいです。中学校の取材に丁寧に対応していただいた南木睦先生、ご協力ありがとうございました。

会員通信

すげーぞ!大谷

ふるさと学習

宇都宮市立城山中学校の巻

NPO法人大谷石研究会 広報担当 佐藤 光弘
(栃木県立博物館)